

第39回日本霊長類学会大会

# 公開シンポジウム

2023年

7/9

日

参加費無料

13:30～16:30

## 霊長類とヒト社会の新たな関係づくりがもたらす未来 — 霊長類をめぐる多様な保全活動の最前線 —

世界各地で霊長類と人間社会をめぐる複雑な問題が発生し、共存することが難しくなっている。日本でも、ニホンザルが人に危害を加えたり農作物を荒らしたりする姿が報道され、「サルは怖い・憎い」といった印象を持つ人々も増えている。一方で、推しザルといったサル類を愛してやまない人々もいる。霊長類の一種である「ヒト」として進化してきた私たちは、これから、霊長類とどのような共存の道を辿ることができるのであろうか。

本公開シンポジウムでは、類人猿・ニホンザル等の霊長類の保全をめぐる多様な人々との関わりを創出している事例を共有し、霊長類とヒト社会の新たな関係性構築がもつ可能性と課題について考える機会としたい。

- 13:30 開会
- 13:35 趣旨説明 山端直人（兵庫県立大学自然・環境科学研究科/森林動物研究センター）
- 13:50 話題提供 (1) 田中ちぐさ（公益財団法人日本モンキーセンター）
- 14:15 話題提供 (2) 山田一憲（大阪大学人間科学部/一般社団法人淡路ザル観察公苑）
- 14:40 話題提供 (3) 鈴木克哉（NPO法人里地里山問題研究所）
- 15:05 話題提供 (4) 山越言（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科）
- 15:35 話題提供者によるパネルディスカッション（コーディネーター：山端直人）
- 16:30 閉会

主催：第39回日本霊長類学会大会実行委員会

後援：兵庫県・神戸市・丹波篠山市・兵庫県立大学・神戸大学人間発達環境学研究科・日本哺乳類学会

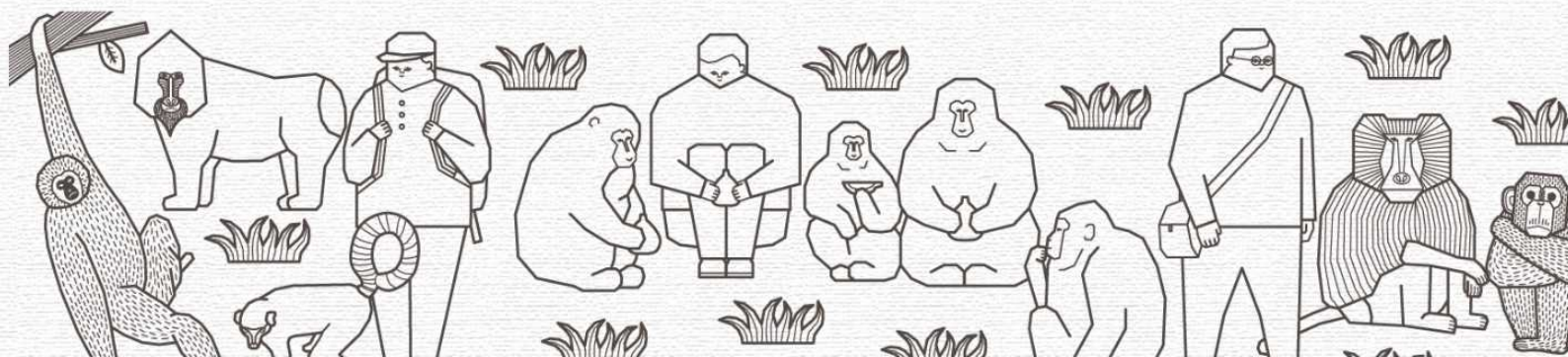
協力：神戸市立王子動物園

### 会場

兵庫県民会館 9階 けんみんホール  
兵庫県神戸市中央区下山手通4丁目16-3  
TEL: 078-321-2131

### お問い合わせ

第39回日本霊長類学会実行委員会  
Mail [psj39th@gmail.com](mailto:psj39th@gmail.com)  
大会HP <https://psj39hyogo.jpn.org/>





# 登壇者のご紹介

## コーディネーター



山端直人（兵庫県立大学自然・環境学研究科）

三重県伊賀市でのサル群管理と地域主体の被害対策に関わり、伊賀市全域でサル被害を大幅に削減することに成功。獣害を解決可能な地域の仕組みは、地域社会の種々の課題解決につながると考え、被害を軽減できる地域の体制や地域政策の在り方を研究している。

## 話題提供1



田中ちぐさ（公益財団法人日本モンキーセンター）

大学卒業後から動物園の飼育員として働く。現在はニシゴリラやチンパンジー、マンドリルなどを担当しており、動物たちに翻弄されながらも癒される日々を過ごしている。動物にとってもヒトにとっても過ごしやすい環境を模索中。

## 話題提供2



山田一憲（大阪大学人間科学部／一般社団法人淡路ザル観察公苑）

ニホンザルの豊かな個性を明らかにするために、行動発達、社会行動の地域間比較、深層学習による個体識別プログラムの開発などの研究を行ってきた。岡山県真庭市と兵庫県淡路島の2つの餌付け集団を対象として、集団の管理支援も行っている。

## 話題提供3



鈴木克哉（NPO法人里地里山問題研究所）

2015年、丹波篠山市に特定非営利活動法人里地里山問題研究所（さともん）を設立。人口減少・高齢化する農村で、多様な人材が参画して地域を元気にする新しい「獣がい対策」を推進。人と野生動物が共生できる豊かな農村のモデルづくりに取り組んでいる。

## 話題提供4



山越言（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科）

1992年より、西アフリカのギニア共和国ボソウで、同地域に生息するチンパンジーの採食生態学、歴史生態学、環境社会学的研究を行ってきた。人里に暮らす「里のチンパンジー」の生態の解明が最近のテーマである。

定員は設けておりませんが、300名を超えますと立ち見をしていただく可能性がございます。参加ご希望の方は、できる限り早く会場にお越しください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

